

実習手順書

この手順書は、2DCM-webワークショップで、自習用に作成したものです。1ステップずつ、チェックしながら、実習書の通りに操作して行くと、一通りの操作について理解出来るでしょう。

JANISからの2DCM-webの起動方法、2DCM-webの原理については、実習システムのホームページにリンクのあるスライドショーで詳しく説明しています。

2017年4月より2DCM-webがバージョンアップされて、

1. 耐性度の高い株に若いグループ番号とそれを目立たせる [耐性度色] を配色する機能が加わった
2. 定義ファイルの利用で、CREのように菌種を超えた菌の同時表示が可能になった
3. 画面操作メニューが自由に配置可能になった
4. 条件設定パネルの非表示化可能になった
5. グループ一覧で行を選択すると、対応する菌株がメイン画面でフラッシュ(点滅)するようになった

の変更が施されています。

基本操作は変わりません。マニュアルなどを参考に活用して下さい。

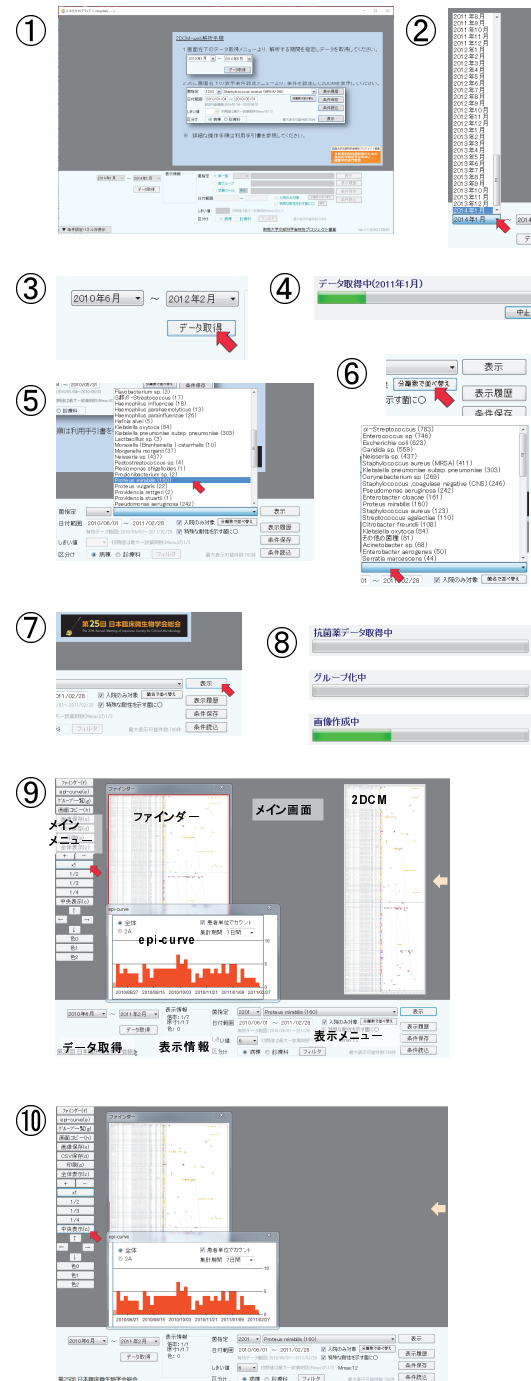
2DCM-webワークショップグループ

藤本 修平(東海大学)
八束 眞一(日高病院)
宮木 祐輝(小牧市民病院)
茂籠 邦彦(彦根市立病院)
岩崎 澄央(北海道大学)
勝見 真琴(東北大学)
柴山 恵吾(国立感染症研究所)
八木 哲也(名古屋大学)

村上 啓雄(岐阜大学)
本間 操(東京都監察医務院)
山田 貴子(安城更正病院)
大瀧 博文(関西医療大学)
大石 貴幸(大崎市民病院)
遠藤 敏尚(仙台オープン病院)
荒川 宜親(名古屋大学)
富田 治芳(群馬大学)

これをやってみよう(1)

1. 実習システムを起動後C-Hospitalを選択、決定ボタンを押します。
2. 右の画面①が出たら左下の年月のボタンを押して2010年6月～2011年2月を指定し、データ取得のボタンをクリック②③。
3. データ取得中の表示④が消えたら、右下、表示ボタンの左側のバーをクリック⑤して*Proteus mirabilis*を指定⑤。括弧内の数字は分離数です。
4. 左側のボタンでJANIS菌コードを用いて指定することもできます。
5. 分離数で並べ替えボタン⑥をクリック⑥するとリストは分離数の多い順に変わりますが、ここは先に進みましょう。
(⑥を押した方は、もう一度クリック⑥して菌名順にして*Proteus mirabilis*を指定し直しましょう。)
6. 表示ボタン⑦をクリック⑦。プログレスバー⑧が出て、その後、2DCMが表示されます⑨。
7. メインメニューの[x1]を押してみよう⑧。
8. 2DCMがどこかに行ってしまいましたね。慌てないでメインメニュー[中央表示(c)]を押すか⑩、cのキーをクリック⑩、あるいは、ファインダーの真ん中あたりをクリック⑩すると画面が真ん中に戻ってきます。



これをやってみよう(2)

9. ファインダーやepi-curve画面はメイン画面とは別に自由に配置できます。メイン画面は大きさを変えることができます(⑪)。

10. 2DCMの図上でクリック(⑪)をしたままマウスを動かして(ドラッグして)図を動かしてみましょう。

11. ファインダーには縮小図が表示されます。の赤四角は表示されている範囲です。

12. ファインダーの中をクリック(⑫)。赤枠が動きます。そのままドラッグしてください。赤枠が動き、2DCMも動きます。

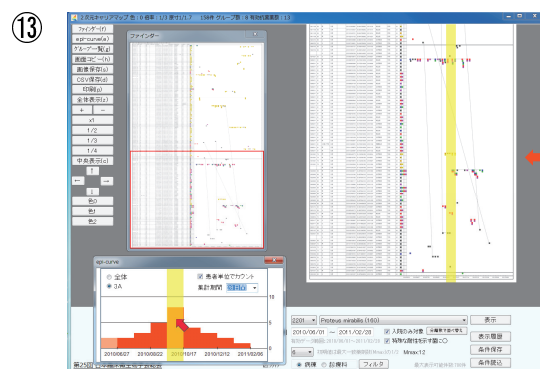
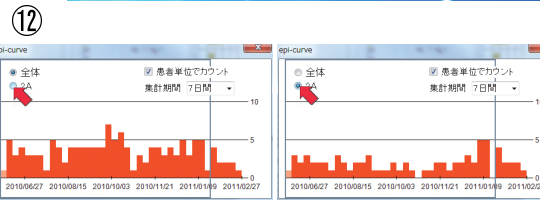
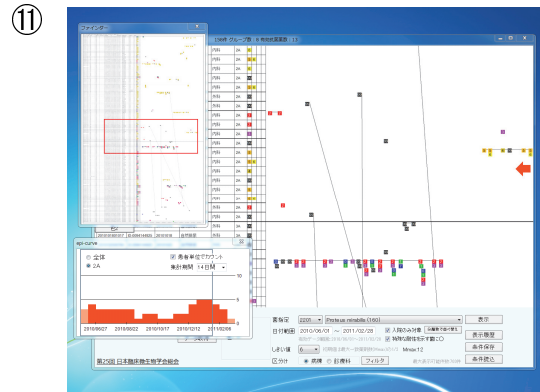
13. 2DCMはキーボードの矢印キー←↑↓でも自由に動きます。

14. epi-curveの「全体」の下の方の○をクリック(⑫)、表示を切り替えてください(⑫)。

15. 2DCMを適当な大きさにして([1/2],,,, [+][-]ボタン、キーボードの1,2,3,4, +, -のキー、Ctrlを押しながらマウスのホイールを回す、どれでもOK)、矢印で画面を上下させてください。その病棟のエピカーブが出ます。何が分かりましたか？集計期間を14日にするととわかりやすいです。

16. epi-curveの集計期間を28日にして、3A病棟の集計を見ましょう。

17. epi-curveの柿色の棒グラフの一番高い棒をクリック(⑬)。対応する期間が黄色い帯で示されます。別の棒を区画するとその期間が黄色くなります。同じ棒をクリック(⑬)すると黄色い帯は消えます。どの8名が数えられたのか分かりましたか？



これをやってみよう(3)

18. 四角の上で左クリック(⑭)。

19. 四角の上で右クリック(⑮)。

20. 右クリックしたあとマウスの移動で同一グループ確認(部分一致)を選んでクリック(⑮)。同じグループに属する検体の一覧が表示されます。

21. 「検体番号」「検体提出日」「ID」などの項目をクリックして並べ替えができます。昇順、降順の別、項目の優先順位が▲▼と(数字)で表示されます。リセットは、並び替えリセットボタンです(⑯)。

22. 右クリック(⑯)の後、同一グループ確認(完全一致)を選ぶと完全に一致するか含まれる検体だけが表示されます。

23. 右クリック(⑯)の後、感受性パターンを選びます(⑰)。

24. 感受性の欄にその株の感受性パターンが表示されます。

25. 分類基準には、そのグループに分類された基準が示されています。分類基準に記載のない抗菌薬は対象となったすべての菌株で同じ結果であったために分類の基準にならなかったものです。

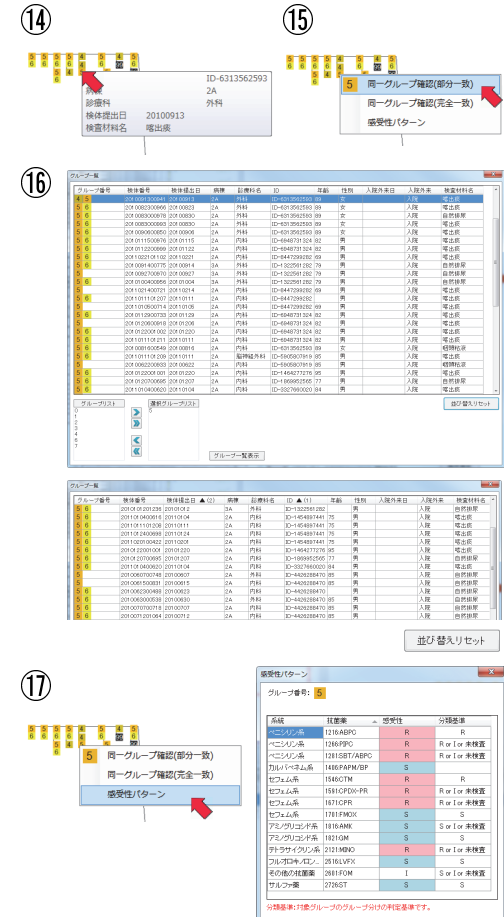
26. [耐性度色][色1][色2][色3]でグループの配色を変更してみましょう。

27. 日付範囲を変えてみましょう。

28. ファインダーやepi-curveのウィンドウを閉じて、メインメニューのボタンから再表示してみましょう。

29. 画像保存を試してみましょう。図が大きくパソコン画面上で縮小画面が表示される時も保存図はすべて、1xのサイズです。

30. 診療科別の表示、フィルター機能も見てください。



実習用データの見どころ

実習用のデータは、どこでも、好きなところ見て下さい。
下に示したのは、「ポスター」で挙げた事例と実習用データの対応です。

A病院

[2DCMの概要]

2005/5/8～ /2009/7/26 *Proteus mirabilis*

B病院

[MRSAの院内拡散①（2DCM-webでこんなことが分かる(1)）]

2006/04/23～2006/06/24 MRSA

[MRSAの院内拡散②（2DCM-webでこんなことが分かる(1)）]

2006/06/01～2006/11/30 MRSA

C病院

[2DCMと分子疫学 上段]

2010/06/15～2011/02/28 *Proteus mirabilis*

[これをやってみよう]（2010年6月～2011年2月）

D病院

[2DCM-webでこんなことが分かる(2)]

2012/06/01～2013/6/30 *Pseudomonas aeruginosa*

[2DCMと分子疫学 下段右]

2011/1/1～2011/08/05 MRSA

E病院

[2DCMと分子疫学 下段左]

2010/12/01～2011/2/28 MRSA